

札幌市立福井野小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

「本の楽しさを感じ、必要な図書を選び活用すること」が本校のテーマである。休み時間には子どもたちで賑わう図書館であるが、足を運ぶのは特定の子に限られていたり、低学年中心だったりする状態が続いている。そのため、本の楽しさを味わう活動を通して図書館の利用を広げていく必要がある。また、調べ学習に必要な図書が不足しており、今求められる図書の購入とその活用の仕方を探っていくことにも取り組んでいく。

2 取組内容

(1) 本を読む楽しさを感じる

① 開放司書や図書ボランティアと教師の連携

図書館掲示を季節に合ったものに定期的に更新した。壁面装飾では、七夕とクリスマス時期に、簡単な飾り作りのイベントを開催し、子どもたちが作った飾りも一緒に掲示できるよう工夫することで、図書館に親しみをもち日常的に足を運ぶ場になるようにした。また、図書館の一角に季節の行事にまつわる本や時期ごとに話題になっている本を並べるなどして、子どもたちの興味や関心を高めた。

読み聞かせは、年間を通して2月1回のペースで行ってきた。図書ボランティアや教師が、季節に合わせた絵本やお気に入りの本などを紹介している。読み聞かせのある日は、担任がクラスの子どもたちに呼びかけ、先導することで、多くの子どもたちが参加する取組となっている。



② 図書委員会による読み聞かせやイベントの開催

参加してくれる全校の友達にとってより楽しく分かりやすい活動にしていきたいという、去年の図書委員会での反省を受けて、読み聞かせ・イベント共に、開催日を低・中・高学年に分けて行った。また、読み聞かせは全校の友達の日や耳に触れるものにしようと考え、放送委員会に協力をお願いし、お昼の放送を利用して参加を呼び掛けた。



イベントでは、本に関心が無かったり苦手感があったりする友達にも、本を手にとってもらいたいと、書籍化されているTV番組や映画をテーマにクイズを考え、「みんながよく知っている映画やTV番組が本になっています！図書館にあるのでぜひ手に取ってみてください！」と投げかけた。

③ 朝読書の充実

本校では、月・水・金の週3回、8時25分～8時40分までの15分間、たくさんの本と出会い、本に親しむ子どもを育てることをねらいに朝読書の時間を設定している。しかし、家庭に読みたい本が無い上、図書館へ足を運ぶことが少ないため、教科書や図鑑を読んでいる子どもが多く見られていた。そこで、国語の教科書の「この本よもう」に取り上げられている本を中心に、学校の各フロアの廊下に移動式本棚を常設することにした。そうすることで、興味のある図書を手に取って本の世界に浸る子が増えてきて

いる。さらに、授業開始前の時間に心を落ち着かせ、集中して取り組む様子も見られるようになってきている。

(2) 教科学習での図書の活用

① 並行読書

1年生では「じどう車くらべ」の単元で、じどう車図鑑を作るために「くらべてみよう！はたらくじどう車1～6」をはじめ、複数の図鑑を用意し、クラス全員に一冊当たるようにした。そして、お気に入りの自動車を見付け、「しごと」と「つくり」の関係について読み取っていった。

6年1組では、教材文の最後に取り上げている筆者の書いた「すごい自然図鑑」と担任が用意した何冊かの関連する図書で、授業の中では回し読みという形で読み進めていった。そして、お気に入りのページ（すごい自然）を見付け、掲示物を作成した。



② 必要な図書を選ぶ

特別支援学級での生活単元学習「畑で育てよう」の単元で、学級園で栽培・収穫した作物で作る料理を選ぶ学習の中で、「はじめてのクッキング1～6」を用いた。6年生が、家庭科や学級での調理の経験を振り返って、学級の仲間全員で作ることができそうな料理をいくつか選び、5年生以下の仲間に提案した。

3 成果と課題

(1) 成果

「並行読書」において、1年生では、学校の周りで見られた重機の動画や図鑑の紹介をした。いろいろな自動車があることに気付き、それらをもっと知りたいという願いをもった。子どもたちは、用意した図鑑を熱心に読んでいた。教材との出会いを工夫することが、主体的に読む姿の実現に繋がっていった。6年1組では、同じ筆者の書いた教材文と並行読書で読んだ本を比較することで、内容の違いに気付き、そこから筆者の主張の意図を再確認することへと繋がっていった。どちらも本を読んだことの成果が感じられる取組となった。本が好きな子だけでなく、読むことがしんどいと感じる子にとっても、クラスみんなで目的に向かって読み進め得られた成成感、読むことへの前向きな気持ちに繋がっていくことであろう。

「必要な図書を選ぶ」では、「切る」「いためる」「やく」など調理方法ごとに題名がついている図書であったため、どの子も家庭科や学級での調理の経験を振り返りながら、スムーズに図書を選ぶことができた。そして、調理方法を中心に料理の提案をすることで、自分たちで作れるものという視点で料理選びをすることができた。「選ぶ」から「調理して食べる」までを子ども主体で取り組んだことで、来年の学級園での栽培やこれからの家庭科の学習への期待感を高める活動となった。



(2) 課題

- 図書委員会と開放司書との連携による図書館利用数を増やす取組。
- 学習に役立つ図書の購入とその有効な活用を探る取組。
- 調べ学習の目的や内容に応じた図書館の活用の取組。